

令和4年度 上田市立南小学校 学校自己評価シート

学校目標		めざす子ども像 ～笑顔輝く南っ子～	
あたたかく ただしく たたく	1 すすんで勉強する子ども	【ただしく】	
	2 体をきたえる子ども	【つよく】	
	3 がんばりぬく子ども	【つよく】	
	4 自分で決めて行う子ども	【ただしく】	
	5 思いやりのある子ども	【あたたかく】	
今年度の重点目標(重点活動)			
知:正しく	わくわく学び合い	自分の考えを持ち表現する	
徳:温かく	にこにこ響き合い	自分から進んであいさつする	
体:強く	とんとん磨き合い	根気よく清掃に取り組む	

総合評価					
前年度同様、コロナ禍でできることをできる範囲で行ってきた。交流活動については、計画しても状況によっては変更する必要がでてきたりと、思うように取り組むことができず、難しい面があった。そのような中でも子どもたちは明るく生活しており、活動に意欲的に取り組む姿があった。状況に合わせて活動が縮小、変更される中だからこそ、交流活動ができた時にその楽しさ喜びを感じ合っている姿が見られた。今後も状況をみて、児童が前向きに活動に取り組んでいけるようにしたい。児童が自分で考えたり、自分から活動をしたりする面については、向上してきているところも一部あるが、学校全体に広めていくために丁寧な指導をしていきたい。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
意欲的に自分からあいさつできる児童が増えてきた一方で、なかなか自分から進んであいさつをすることまでいかない児童の姿もあり、個人差がある。引き続きあいさつの向上をめざしていきたい。意図的にペア・グループ学習を授業に取り入れるなどして、学び合う授業づくりに取り組んできたところ、友と意欲的に話し合ったり取り組んだりする児童の姿が見られるようになってきており、昨年度よりも向上してきている。コロナ禍で交流活動が思うように取り組むことができていない。方法を工夫し、できることを増やしていきたい。		○			あいさつ・清掃・安全については、職員共通認識のもと、年度初めにしっかりと丁寧な指導をしていく。良い姿を認め、広めていけるように意識していきたい。交流活動では、リモートで行うことや小集団で行う等、方法を工夫していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	学年・学級経営	気づき清掃の推進・奉仕精神の醸成	ひざつき清掃など、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにするなどで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。
		規範意識の高揚と危機管理意識の向上のための指導	校内生活で「右側廊下歩行」の徹底をさせて規範意識の高揚を図れたか。通学時に「道路横断前後の立ち止まり(確認・挨拶)」を意識付け、実践させることはできたか。
		気持ちのよいあいさつの充実と返事の徹底	積極的な声かけや児童会活動との連携で、気持ちのよいあいさつや返事のよさを自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。
		響き合う歌声や交流活動による認め合える仲間づくり	仲間と歌声を響き合わせたり、異学年や地域の方々とのふれあい交流を行ったりすることで、互いに認め合える集団づくりを進めているか。
	学習指導	授業のユニバーサルデザイン化・南小スタイルの推進	校内及び教室環境や教材の整備ができたか。「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。
じっくり考え、しっかり書く振り返りの時間の確保		1時間で学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。	
基礎基本の定着・家庭学習の充実		ドリルや学びの時間で、つまづきを把握して、丁寧な指導を行い、基礎基本の定着を図れたか。「家庭学習の進め方」をもとに家庭と連携した家庭学習の充実に努めているか。	
地域との連携	学校作り	信頼関係でつながる学校づくり	学校・学年・学級だよりや懇談等を通して、学校での子どもの様子を伝えたり、うれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取り合ったりすることができたか。
		南っ子応援隊の活用・三点固定の生活習慣の確立	地域の方と連携した教育活動を昨年以上に広めることができたか。家庭と連携してメディアと向き合う時間・家庭学習時間・就寝時刻等の固定による望ましい生活習慣の育成を図ることができたか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
低学年からひざつき清掃に取り組むことができており、定着してきている。児童会企画で意識を高めるなどして、全体的には掃除をきちんとやるという空気がある。一方、自分から汚れを見つけて、黙って時間いっぱい清掃に取り組む「気づき清掃」にはまだつながってきいていない姿がある。また、ひざつき清掃の良さを理解して取り組むところまで、子どもたちの意識をもたせることができていない面もあり、今後の課題である。		○			年度初めにじっくり時間をかけて清掃指導を行う必要がある。学年や児童会で集会を行い、職員で統一した指導を行うことで清掃の意義ややり方を共有していく。特に掃除用具の扱い方、場所に合った清掃の方法等、子どもたちに考えさせる時間を設けていきたい。そして、良い気づき清掃の場面を子どもたちに知らせていき、どうするといいか子どもたちが見通しをもてる指導を行う。
廊下歩行に関しては、右側通行を意識し、落ち着いた行動ができる児童が多くなってきており、おおむね達成できた。何度注意しても廊下を走ってしまう児童がおり、徹底することがなかなか難しいが、根気強く指導していきたい。登下校の様子では、「自分で自分の命を守る」意識は高いとは言えず、道路で広がって歩いたり、横断歩道で中途半端に手を挙げたりする姿があり、安全指導が十分徹底できていなかった。		○			安全に行動することについて、共通認識をもてるようしっかり指導していく。次の活動の開始時刻の意識を高めたり、授業の終わりの時間を守ったりして、子どもたちが時間に余裕を持って行動できるようにする。通学指導は、集団登下校の際、全体指導を実施した。班長をはじめ高学年の交通ルールやマナーの指導を丁寧に行い、低学年に伝えていくことも大切にしていく。
児童会の取り組みもあり、意欲的にあいさつをする児童が増えた。教室に入るときあいさつや、授業での返事やあいさつは良くできている。一方、他学年同士、対職員にはあまりできていなかったり、あいさつされれば小さな声で返したり、うなずきで返したりする児童の姿もある。自分から進んでできるようにするなど、あいさつを向上させていきたい。		○			あいさつの大切さを子どもたちに伝えながら、引き続き職員や保護者の方など、身近な大人があいさつをする姿を子どもたちに示していく。児童会を中心に気持ち良くあいさつできる活動に取り組む、良い姿を認め合いながら、更に広めていけるようにする。
新型コロナウイルスの影響により、学級、学年で合唱に取り組むことや異学年交流をすることがなかなかできず残念だった。しかし、警戒レベルが下がった際には、なかよし学級との交流を行うことができた。児童会での企画に加えて、学級間で時間を工夫して行うことができた。コロナの影響で積極的に合唱や異学年交流に取り組むことができなかったが、コロナが治まったら活動をどんどんスタートさせたい。			○		できることをできる方法でやっていく。警戒レベルや状況に応じてリモートでの集会を設け、発表したり見合ったりする機会を作り、交流できるように考えていく。そして、状況を見ながらさらに歌う機会や地域や異学年との交流の機会を増やしていく。
「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れに沿って板書することができた。見やすい板書については今後も意識していきたい。学習問題や見通し、めあてを子どもたちと共有しながら授業を行うことを心がけた。子どもたちが見通しをもって授業に取り組むことができるように、授業の流れを黒板に示すなどの視覚支援を行った。欠席児童へのリモート授業を行う際、板書スペースが狭くなるため、更に工夫が必要だった。		○			教師がお互いの授業から学んでいく機会や情報交換する機会を作っていく。授業後の板書を撮影して記録して見合うなどし、自己研鑽に励んでいきたい。授業では、更に子どもの言葉や思いをめあてやまとめに取り入れて、学びの実感が持てるようにしていく。
自分の言葉で書いたり、発言したりして授業のまとめをする時間を設けるように意識して取り組んだ。一方で、書いたり発言したりすることが苦手な児童のとらえ方や支援については方法を考える必要がある。また、学習内容の定着、一般化に精一杯でしっかり振り返りやまとめの時間が確保できないことがあったので、必ず振り返りの時間は位置づけるようにしたい。		○			振り返りの時間を確保できるように意識して取り組んでいく。子どもが自分の言葉で書いてまとめができるような時間を確保する。自分の積み重ねが分かるような学習カードの工夫などをしていきたい。
ドリルや学びの時間を個別指導に充てたり、計算や漢字練習などに取り組んだりして、基礎基本の定着を図ることができた。家庭学習については、内容や量などを工夫して取り組みやすいようにしている。しかし、家庭学習の取り組み方には個人差があるので、家庭への協力を更にお願ひし、家庭学習の充実に図っていく必要がある。		○			ドリルの時間と授業の繋がりを意識し、授業でつまづきがあった部分を少ない問題数で行うなど、内容を工夫していく。家庭学習については、家庭学習の在り方について全校統一して家庭へお伝えし、協力を仰いでいきたい。
意図的にペアで考える時間やグループで話し合ったり、一緒に取り組んだりする機会を設けて授業を展開してきた。友と意欲を持って学び合い、話し合うことに抵抗が少なくなってきた様子が見られる。これからは学級全員がしっかりと聞き姿勢を見せ、自分の思いや願い、考えが表出できるよう取り組んでいきたい。また今後は、児童が必要感をもって取り組むことができるように、問題や課題の提示の仕方を工夫していきたい。		○			今後もペア・グループ活動を取り入れ、授業を展開していく。学年会や研究会等で、子どもたちが必要感をもって取り組めた場面や手立てを共有する機会を作っていく。また、chromebookを活用して考えを伝え合い、深め合えるような学習展開も考えていきたい。
定期的な学年通信の発行ができています。子どもたちの学校で頑張っている姿を中心に、日々の姿、成長した姿等を保護者に伝えることができた。必要に応じて懇談の時間を設けたり、電話でお話したりして、こまめに情報交換をすることができた。		○			今後も良い姿や学級全体としての姿、子どもたちのやり取りの様子などを学年通信や学級通信で伝えていきたい。心配な事があるときには、保護者と連絡をとり、共有することを大切にしていきたい。
コロナ禍で地域の方とのつながりを感じる活動は少なかった。今年度はメディアについてのPTA講演会ができたことがよかった。メディアと向き合う時間について学級懇談会や個別懇談会、通信等で啓発したり、子どもたちと話し合ってきた結果、家庭で約束の内容を見直したり、子どもたち同士でゲームの約束を決めたりする姿があった。一方、メディア時間が少し減らない家庭もある。			○		情報や保健学習の中で、健康や相手への思いやりを含めて、メディア利用の望ましいルールを考え合う機会を設けたり、児童と保護者が一緒にメディア活用についての講演会を聴く機会を作ったりして、メディアや生活リズムについて学べる機会を設けていきたい。

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった